

特集【おらほの農地集積】

「**ここを耕す、小さき大地曲袋地区**」 ~ 集落農場を目指す志の再燃 ~

まげ ぶくろ

曲袋地区

1. 地区の概要

事業名	： 県営ほ場整備事業(担い手育成型)	担い手農家戸数	： 1組織
関係市町村	： 中田町	担い手経営面積	
関係土地改良区		(実施前)	： 0.5ha
工期	： H13~H17	(H13実績)	： 0.4ha
受益面積	： 35.0ha	農地集積増加率	： -3.4%
総事業費	： 636百万円	農地集積率	： 11.3%



2. 地区の現状

周囲を一級河川北上川に囲まれた「曲袋地区」は、江戸時代の初め伊達正宗の命を受けた登米城主：伊達相模宗直が水害から人々を救うため、直線的に流れていた北上川を曲げて袋状にしたことに由来します。

当地区は平成9年度にみやぎ型手づくり農業農村支援事業を導入、続く平成10年・11年度に担い手育成農地集積事業、さらに平成12年度に町単独でほ場整備に先駆けて関係農家からなる「曲袋ワーキンググループ会議」を設立。地区の現状分析、営農意向調査等を実施し整備後の営農構想を策定しております。また集落推進会議などを通じて、関係農家との合意形成の確立、並びにソフト事業の推進を図ってきました。平成13年度これらを背景に県営ほ場整備事業がスタートしております。

3. 目指せ！「集落1農場1管理システム」

ワーキンググループ会議では現状分析結果を踏まえ、曲袋地区の特徴を生かした独自の営農計画を策定しようと検討を重ねてきました。最大の課題は出し手希望農家が8割いる中であって、冠水する危険性がある地区を誰がどのようにして担うかであり、担い手の選定にあたっては多くの時間を費やしました。

また、現在の厳しい農業情勢下であるからこそ農家にとって有利な農業を展開する為には、生産コストの軽減に向けた連担団地形成や転作の団地化など、農家の営農意向をもとに土地利用調整を図っていく事が重要となります。加えて、他町からの入作者が半数を占める当地区にあっては、誰が土地利用調整を行なうのか、或いは従前地に執着する強い意識の中で換地による集団化は円滑に進むのか、といった課題の解決も急がれました。

このように課題が山積みされた中であって、ワーキンググループ会議の活動も若干の陰りが見え始めた頃、行き詰まりを感じていた関係者の意識を大きく変える出来事が起こりました。それは一枚の写真(表紙：写真工房N永野洋氏撮影)との出会いでした。澄んだ北上川に浮かぶ緑、北上川と曲袋地区、自然が作り出した美しい曲線「これが本当に曲袋なのか」と誰もが驚きを隠せませんでした。異なった視点で自分達の曲袋を見た事により、景観のすばらしさという新たな発見ができたことで「自分達の手で曲袋を守り、そして作り上げていくのだ」という意識が芽生えました。

この意識の変化によって、ワーキンググループ会議の議論を再燃させ、ほ場整備を前提に4名が担い手として規模拡大を進めていく事になりました。理想の姿として曲袋地区をひとつの集落(コミュニティ)、そして地区をひとつの農場として捉え、営農の窓口及び収支を一本化し、担い手を核とした地域住民全体による営農形態が構築された『1集落1農場1管理システム』を目指しております。この目標は、関係農家からの合意を取り付け地区独自の営農構想として活性化計画にも定めております。

4. はじめの一步

現在、曲袋地区は関係農家からの発案によって地区全体を工事完了まで団地転作し、これを担い手に作業委託しています。担い手4名もこれを受け曲袋地区担い手組合を設立し、生産組織として転作作業を受託し今年度は水田面積のほとんどを大豆、飼料作物を作付けしました。

このように活動が突り始めた曲袋地区ですが、残念な事に昨年7月の台風6号によって地区全体が冠水し、甚大な被害を受けました。災害状況を皆で確認し、今後の対応を考えようと現地説明会を開催しましたが、「ほ場整備どころではない。中止すべきだ」といった意見が出されるのではないかとという不安もありましたが、いざ蓋を開けてみると「今後二度とこのような事態を引き起こさないようにする為にも、積極的にほ場整備事業を推進していこう」と前向きな発

言が多く聞かれ、台風被害を受けた事で関係農家の絆はより深まりました。さらにこの説明会では、関係農家の半数を超える参加があり、活発な議論が展開される中「もっとみんなが集まれるようなイベントを開催して、ほ場整備に対する意識を高めていこう」という提案がされるなど、さらなる盛り上がりを見せました。

また、現在ワーキンググループ会議では『1集落1農場1管理システム』の構築に向けて話し合いを進めており、第1段階として地権者全員が参加する『まげぶくろ営農組合』の設立を2月に設定し、関係農家との合意形成を進めております。第2段階として担い手支援を目的に関係農家がオペレーターとして参加する『まげぶくろ支援センター』の設置を予定しております。担い手は誠意を尽くして営農し、出し手も頼んだから終りではなく、担い手に協力しみんなで営農をしていこうというコンセプトが確立されつつあります。

5. 曲袋地区アラカルト

曲袋地区の営農目標である集落営農は、地域全体が協力し合いながら営農していくものです。この目標達成のためには地域住民各戸の意識の均一化が必要となります。このため当地区では『曲袋つうしん』という情報誌を発行し各委員会、ワーキンググループ会議での協議内容や決定事項、集積事業の要件説明、工事概要、更には換地や評価業務に至るまでありとあらゆる情報を発信し、関係農家の皆さんと情報を共有することで常に曲袋地区に関心を抱いて頂けるようにPRに努めています。

また、前述の現地説明会での提案を受け、ワーキンググループ会議においてイベントの開催を検討し、昨年11月16日(土)現地において「まげぶくろ収穫フェスタ'02」を開催しました。このイベントは農家が手づくりで企画、準備、開催したもので、昼食会ではそれぞれ食材を持ち寄り、豚汁やおにぎり、パーベキューに舌鼓を打ちながら皆で曲袋地区を語り合いました。

収穫フェスタでは、曲袋地区の航空写真を撮影した永野洋氏を招き、空から見た曲袋地区について基調講演を頂いた他、自分たちも「空から曲袋地区を見てみよう」と熱気球の体験搭乗を行ないました。午後からは、これまでワーキンググループ会議で検討してきた集落営農について、関係農家に説明を行ないました。このイベントについては、事前PR等を行なっていなかったことから「参加者が少ないのでは？」という不安もありましたが、当日は天候にも恵まれ200名を超える参加者があり、曲袋地区ほ場整備事業をPRする良い機会になったものと思われま

す。自分達の目で、自分たちの地区の美しさを確認した事で、ほ場整備による面的な整備だけではなく、曲袋にしかない景観の素晴らしさを活かした地域の活性化を目指し、全員参加の下目標が達成されることを期待します。



- 問い合わせ先 -
〒987-0602 登米郡中田町上沼字西桜場18
中田町 産業経済課
TEL: 0220-34-2311 FAX: 0220-34-7174